

中部大会速報

7 愛知県 春日井高校

みづごとくな展開

笑いからシリアスへ

脚本の選択

原作の脚本を初めて読んだときに生徒が先生の言うことを聞かずに暴れまわっているのが、去年までの私たちの部活の様子に似ていると思ったから。それで潤色するにあたって生徒たちがお互いを理解しあってみんなで本当の友情を意識することを伝えたくて、この脚本にした。

いろんな脚本集などを読んでいた時にインターネットの瀧源作さんのホームページで台本をたくさん読んでその中から見つけた。

苦労した演出と役作り

キャストがラストシーンにかけておもしろいお互いの思いをぶつけ合っていて喧嘩するところがあって、キャストそれぞれが自分のキャラだった相手キャラに対してどう思うかということを中心に、どんな意見を出し合いながら決めていた。それで、喧嘩のシーンにリアリティが出るようにした。

今回の台本はそれぞれのキャラクターの個性が大事になるので、キャラクター研究が大切だと考え、それぞれ

のキャラクターの内面まで、しっかりと作りこんだ。

舞台装置

苦労したことは、パネルとパネルの間を埋めることだ。このパネルは六人で作成し、ペンキで一所懸命塗った。

ここだけの話

練習中、嵐のポスターの貼り紙の配置を考えていて、壁



先生を説得している生徒たち。

発行

第68回中部日本高等学校演劇大会生徒実行委員会 広報

2015年

12月25日

作品名

イラストリー



先生に鼻水をつけようとしている、さつき。

かったし楽しかった。

編集後記

私自身劇の中に入り込んでしまった。特に教室セットの壁にポスターを貼る演出が新しいなと思った。

感想カードより

お疲れ様です。テンポの良いギャグに、少しずつ進んでいくシリアスな展開が良かった。一人ひとりの個性も、分かりやすかった。(Kさん)

テンポの良い笑いで、引き込まれ、段々とクラスメイトたちの中がずれていく様子が丁寧につくられ、違和感がなかった。(匿名)

最後に一言

部員全員でここまで劇を作ることができて、本当に良

(担当) 西谷、長沢、堀田、北野